

水稲（もち）「ふ系糯 147号」

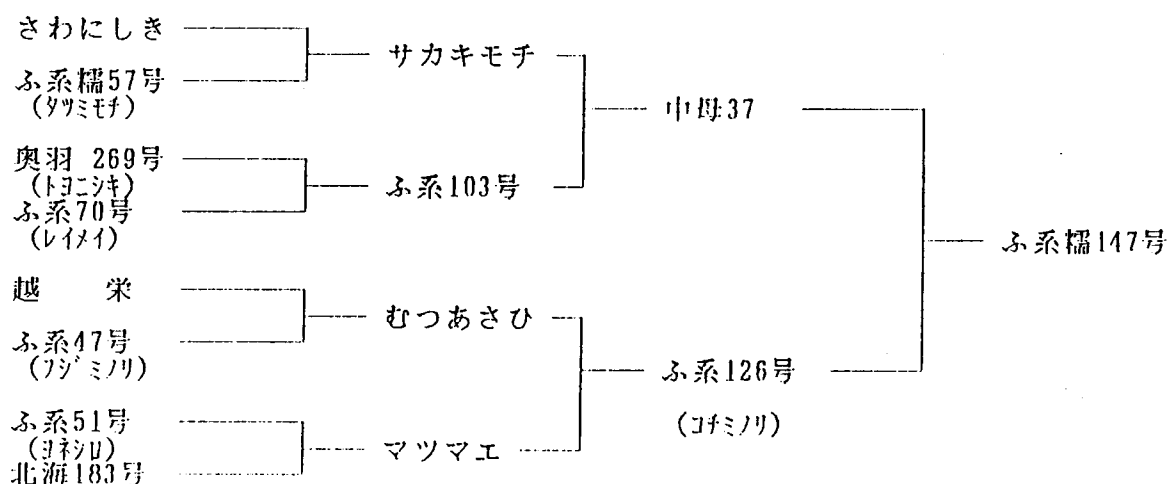
（農試技術部・県北分場）

1. 来歴

「ふ系糯 147号」は、糯品種の耐冷性向上、草型改良及びもち質の向上を目指して、青森県農業試験場藤坂支場において、1980年、「中母37」を母とし、「ふ系 126号（後のコチミノリ）」を父として人工交配された。

岩手県においては、1987年から本場及び県北分場で生産力検定予備調査を行い、翌年からは、生産力検定調査並びに現地調査に供試してきた。本系統は、収量及び諸特性に優れ、特にもち質がよく有望と認めた。

系譜



2. 特性

- (1) 稈長・穂長は「わせとらもち」よりやや長い。粒着密度は中位で一穂着粒数は少なめ、穂数は並であり、「わせとらもち」より粒数は少なめである。草型は穂重型。
- (2) 稈はやや太く、やや剛で倒伏抵抗性は「わせとらもち」並の“やや強”である。
- (3) 止め葉はやや長く斜立し、穂揃いは「わせとらもち」よりやや劣る。籾は鮮やかな赤橙色で、ふ先色は褐色で芒はない。
- (4) 出穂期は「わせとらもち」並、成熟期は並からやや早い。登熟がよく収量性も高い。
- (5) 障害型耐冷性は“強”に属する。
- (6) いもち病の真正抵抗性は“Pi-a”と推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちとも「わせとらもち」より強い“強”である。
- (7) 穂発芽性は「わせとらもち」並の“易”である。
- (8) 玄米は「わせとらもち」並の小粒であるが、粒色（白度）及び光沢がよく、品質は優れる。
- (9) もち質、食味は「わせとらもち」より良好である。

3. 採用する理由

「ふ系糯 147号」は多収性を有し、品質も優れる。また耐冷性（特に初期生育・穂孕期とも）も強く収量性・品質的に安定している。出穂期は「わせとらもち」並で、登熟の速度も早いなど、諸特性において優れている。

これまで、本県県中北部で栽培されてきた「わせとらもち」は、もち質にやや難点があり、同品種のもち質の改良が要望されていた。「ふ系糯 147号」は、もち質が良くこれらの要望に答えられることから、県中北部の糯米の安定生産と品質向上を図るため、準奨励品種に編入する。

4. 普及地帯及び普及見込み面積

県中北部、これまで「わせとらもち」が栽培されてきた地帯。但し、高標高地は除く。

普及見込み面積：300～400ha

5. 普及上の留意事項

(1)単位面積当り穂数がとれにくいので、健苗育成、初期の水管理などに留意し、早期に莖数をとることで穂数確保する。

(2)施肥量は「わせとらもち」並でよいが、穂発芽性が“易”なので、倒伏させないように十分注意する。

(3)登熟速度は早く品質も優れるが、ふ色（粃殻の色）のため刈取り適期の判定が難しいので 注意を要する。

6. 試験結果

試験場所	試験年次	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	m ² 穂数	玄米収量	標準比	玄米千粒重	一穂数	登熟歩合
			月日	月日	cm	cm	本/m ²	kg/a	%	g	粒	%
本場	87～	ふ系	8.10	9.24	74	17.5	479	62.3	109	20.8	75.5	76.9
	89	147	8.10	9.25	75	16.7	501	57.2	100	21.0	81.1	64.1
県北	87～	わせ	8.12	9.29	76	18.4	429	61.3	106	20.5	78.5	77.0
	89	とら	8.10	9.28	76	16.4	461	57.4	100	20.7	84.7	65.7